

「言葉がくれる勇氣」

山口県 安禅寺住職 村上邦明
あんぜんじ むらかみ ほうみょう

皆さんは、人にかけてもらった言葉で勇氣をもらい、気持ちが前向きになった経験はありませんか。小学校三年生の息子は、一年生からラグビーをしています。今でこそ練習を楽しみにしていますが、二年生まではそうではなく、ある出来事が息子の気持ちを变えましました。

パスの練習をしていた時のことです。息子は、うまくボールをキャッチできず、指を痛めてしまいました。息子はそれまでも、パスキャッチに限らず練習がうまくできていなかったこともあったので、色々な気持ちが溢れてきたのでしょうか。その場で、大きな声をあげて泣き出しました。息子は、練習の輪から抜け出し私のところへやってきて、「指が痛い。もう嫌だ。練習しない」と泣きます。私が「指もちゃんと動くし、もう大丈夫」と言っても聞きません。

そんな息子にチームの仲間が「指、大丈夫?」「いいパスを 投げられなくて ゴメンね」「一緒に 練習に戻ろう」と、息子のことを心配しながら、言葉をかけてくれました。仲間の言葉で、息子も落ち着いてきたのでしょうか。「練習に戻る」と言って、再び練習の輪に加わりました。練習に戻った息子を仲間が気遣い、また次々に声をかけてくれました。

そして、次の練習日。私は息子が練習に行くかどうか、気がかりでした。しかし、息子は張り切って「今日も練習に行くよ。パスをちゃんと取れるようにせんといけんけえ、父さんパス投げて」と言いました。息子は、仲間からかけてもらった言葉に勇氣をもらったようです。練習に向かう様子が、これまでとは全く違っているように見えました。

今、私たちの身の回りでは、現実の場でも、ネット上でも、多くの言葉が飛び交っています。そのような社会状況だからこそ、相手のことを思いやり、心を寄せることができる言葉が大切だと実感します。私も人に対して、偽りのない、思いやりのある、優しい言葉をかけることの大切さを、そしてその言葉が相手に勇氣を与え、気持ちの変化を起すこともあると教えてもらいました。